BRAVE HEARTS

OUR CHALLENGE

VISION BOOK 2025

日本にもっと挑戦する力を

INDEX

はじめに

Brave heartsビジョン2030

事業概要

実績紹介

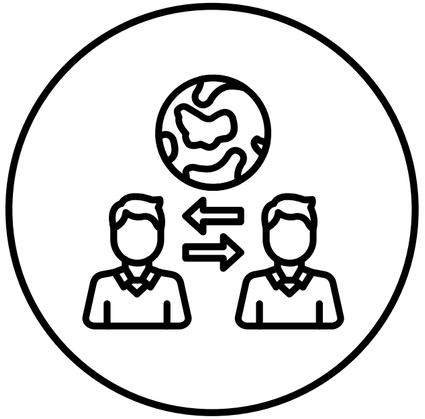
お問い合わせ情報

文化の垣根を越えて、一人一人が輝ける世界を日本から共に創る。

挑戦や対話の機会を創出し、
一人一人が生きがいをもち

心に余裕を持ちながら、互
いを尊重できる社会を築く

What WE DO



国際交流事業

国籍や性別などの様々なバックグラウンドを超えて、交流できる「居場所」を提供しています。ただ、交流できる場だけではなく「一人一人が新しい視点」を獲得できる場を提供できるように設計しておりますｙ。

共育コンサルタント事業

自分が、現代社会に向き合い多角的な視点から捉えなおし課題の発見から解決策をビジネスを通して主体的に行える場を提供しています。

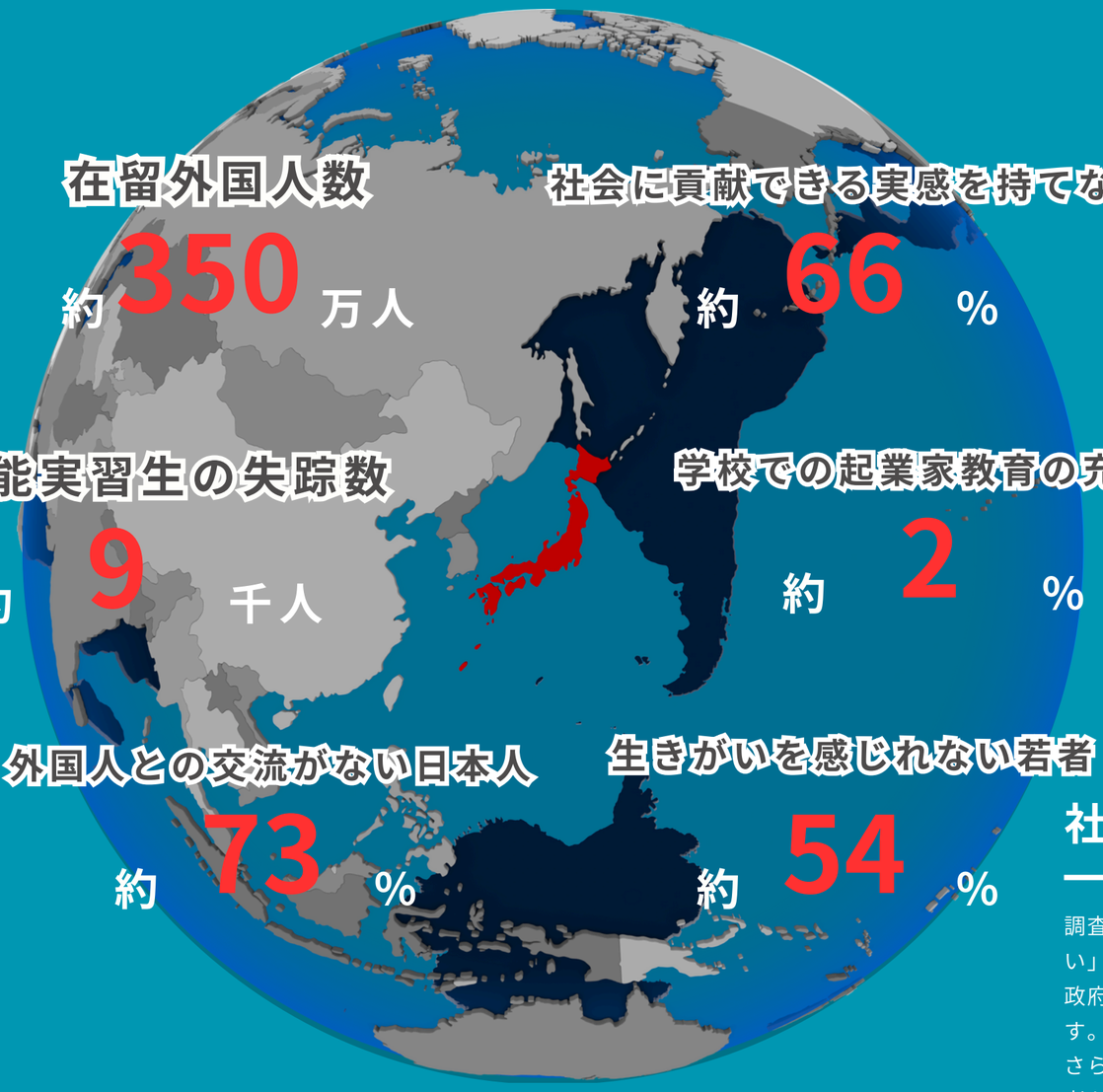
課題認識

在留外国人との対話不足

日本の在留外国人が約350万人（出入国管理庁調査）を超える中、日常的に外国人と交流する機会のある日本人は約73%（出入国管理庁調査）にのぼることが分かりました。社会心理学の研究でも分かる通り、人は普遍的に外部の人間に対するスキーマ（偏見）を持っています。これを解決するための、文化理解を超えた「共創」の場として国際交流イベントが社会的ニーズであると考えています。

日本人と外国人双方の不信感

技能実習生の失踪数が、9千人以上（法務省調査）にのぼります。この背景にあるのは、低賃金や労働問題といった所だけでなく「双方の不信感」であることが外国人労働者を取扱う企業へのインタビューで発覚しました。低賃金＆労働者問題を解決するための、一丁目一番地はやはり「相互理解」の促進と、日本人と外国人双方における「受け入れるための心理的余裕」であると考えます。



不明瞭な存在意義

現代日本社会の若年層は、「人生の意義」を見いだせていないことが、子ども家庭庁の調査により明らかになりました。
京都大学の教授によると、「人生の意義」を感じることは「幸福」を築く重要な要素であり、それなしに他者志向性を持つことは難しいと述べています。日本社会は今後、多様な文化や価値観を持つ人々が共に生きる時代を迎えます。その中で、若者が自己の存在価値を確立し、他者と積極的に関わることは、「多文化共生」を実現する上で不可欠な要素となります。

社会貢献活動の特権化

調査によると、日本の若年層の多くは「社会貢献ができていない」と感じています。これは、社会課題の解決が一部の企業や政府に依存し、市民が主体的に関与しにくい現状を示しています。
さらに、日本の起業家教育は欧州と比べて発展途上であり、若者が社会課題に対して行動を起こす機会が限られています。今後は、社会課題の解決を特定の組織に委ねるのではなく、一人ひとりがソーシャルセクターの一員として積極的に関われる環境が必要です。

BHが考える理想像

２０５０年の日本社会

01 生きることへの納得感を感じて他者との繋がりを喜べる社会

これから、多様性を尊重し、国籍・文化・価値観を超えた「ボーダレス」な社会が訪れると、私たちは考えています。だからこそ、一人ひとりが消極的ではなく、挑戦し続けることができる社会を実現しながら、他者と共生し、新たな価値を共創する。そんな、社会課題に挑戦し続け、新しい価値を生み出す「持続可能なイノベーティブ社会」を目指します。

循環型共生社会

「存在価値」を自覚して、共生できる社会

02 自助と共助が支える、持続可能な共生社会へ

私たちは、一人ひとりの自立（自助）と、社会全体の支え合い（共助）が調和する社会を目指します。異なる背景を持つ人々が共に生きるためには、個の力と社会の力のバランスが不可欠です。だからこそ、教育・雇用・地域のつながりを通じて、誰もが挑戦し成長できる環境を整えます。互いの違いを尊重しながら支え合い、持続可能な共生社会を築いていきます。

03 持続可能な自由経済社会の構築と研究

経済成長の原動力は、自由な市場競争と個々の挑戦によるイノベーションです。しかし、過度な競争や格差の拡大は、社会の安定を損ない、人々のウェルビーイングを脅かす可能性があります。私たちは、競争の活力を損なうことなく、人々が安心して暮らし、働ける環境を整える「持続可能な自由経済」を目指します。

メッセージ

日本にもっと挑戦する力を

代表理事　佐藤 謙成

誰もが挑戦し、人生の意義を見出せる社会を。
Brave Heartsは、挑戦の機会が限られた現状を変え、日本と世界の可能性を広げるために活動しています。誰もが挑戦できる環境を創り、一人ひとりの可能性を最大限に引き出します。

あの日失ったこと
あの日に受け取ったこと

私から、病気は自由を奪った
が、何かを与えてくれた。
今まで、助けてもらう側だったからこそ
今度は、与える側になりたい。

突然の発症。
初めての救急搬送

突然酸素が吸えなくなった。今まで、ありったけ吸えた酸素が一切足りない。少しでも、多く吸いたくても吸えないし動きたくても動けない。そして、何もできなくなった。今までできていたことが、何もできなくなった。絶望という感情で心の中は埋め尽くされた。
人生に希望なんか、持てなくなった。
一夜にして、持たざる者になったのだ。

病室のベットの上で、チューブを肺に挿しながら痛みに堪えるしかなかった。つい、昨日の夜まで当たり前のようにできていたことが、どんなに希少価値の高いものか思い知ることとなった。初めての病室、一人涙を流した。

やっとの思いで、退院をした。期待に心を躍らせて、酸素のありがたみを初めて心一杯に染み渡った。しかし、ここから、六回の気胸を繰り返し「両側性気胸」を発症して呼吸困難の一歩手前まで陥った。「できないことがまた増えた。」いろんな自責の念が襲ってきた。そして、看護師さんがいなければ動けない自分にも腹が経った。

この経験を通して、私は伝えたい。
「失ってからでは、もう遅い」と

自分には、できないことがたくさんある。そして、後悔がたくさんある。
失った者だからこそ、みんなに一日一日の大切さを知ってほしい。
何でもできることの、大切さを知ってほしい。
そんな思いで、団体を発足しました。

⭐ 団体情報

屋号	Brave hearts
代表者	代表理事　佐藤謙成・山﨑遼大
設立	2024年4月
団員数	55名（内90%以上が高校生）
所在地	〒227-0052 神奈川県横浜市青葉区梅が丘 ３３－４－２０１

02

Mission
Vision

ミッション・ビジョン

Mission

「カラーバリエーション」を増やそう。

人はみな、かけがえのない存在です。私たちBrave Heartsは、文化や経済的背景、言語の違いを超えて、一人一人の尊厳が守られる社会の実現を目指しています。社会心理学の知見に基づき、人と人との本質的なつながりを重視し、持続可能な多文化共生社会の構築に全力で取り組んでいます。このミッションのもと、すべての人が等しく「人」として尊重され、その個性が輝ける社会の実現に向けて、日々活動を展開しています。

Vision

可能性を絶対に捨てない

否定から始まる物語を読みたいですか？
希望に満ちた物語は、人々の心により深く響きます。
私たちBrave Heartsは、一人一人の夢や目的が、新たな物語の始まりとなることを信じています。
団員それぞれが抱く理想や熱意を、確かな一歩へと変えていける環境づくりに努めています。

03

Business

事業概要

01

共創から理解を

「共創型」
国際交流イベント

外国人と共に、イベントを通じて作品を共同制作することで、自然に相互理解が生まれます。『こういう考え方をするのか！』や『意外と面白いな』といった新たな気づきを得ることで、単なる“異文化の一員”としてではなく、“個人”として理解し合うことにつながると考えています。

02

挑戦から学びを

社内起業から、社内ベンチャーを通じた挑戦できる場

若年層において「人生の意義」を感じられている日本人の割合は、先進国の中でも低いことが、子ども家庭庁の調査により明らかになりました。この課題を解決するために、「成長できる場」の提供を通じて、若者が自らチャレンジし、実践知を基に「人生の意義」を見出せる環境を構築してまいります。

主体的な挑戦を通じて、自己の可能性を広げ、社会と積極的に関わる人材の育成を目指します。

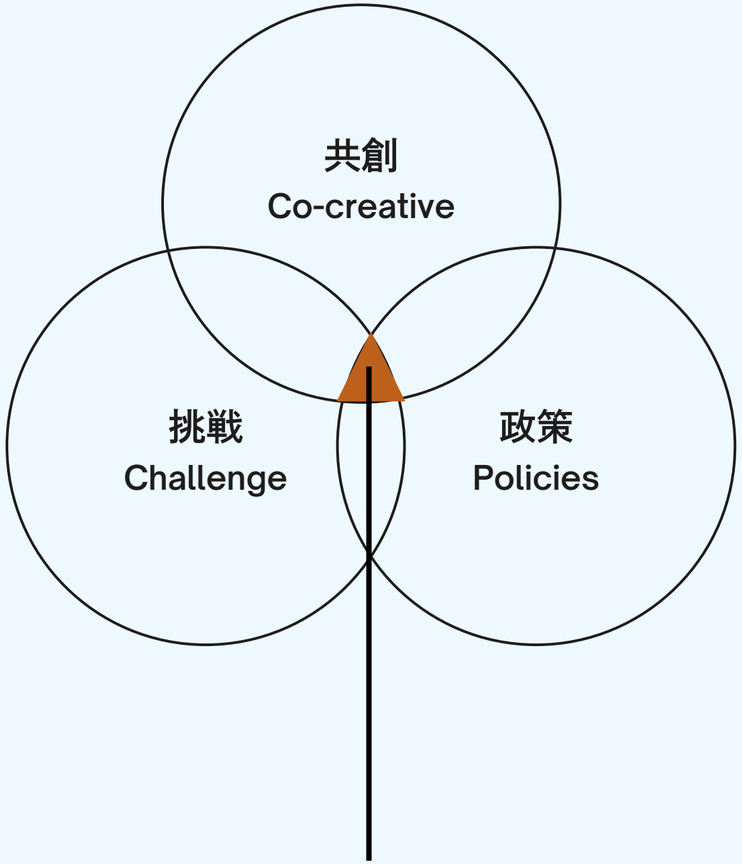
03

政策から変化を

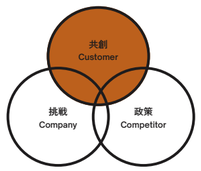
若者の主体的な、意見表明を。

政策決定のプロセスに若者の声が反映されにくく、政治参加に積極的な若者が限られている現状を踏まえ、当団体では『社会課題』について議論し、社会に向けて提言できる場を提供しています。これらを通じて、若者が主体的に日本社会を捉え直し、社会課題に対して柔軟な発想で意見を発信できることを目指します。

「課題」を乗り越えるためには

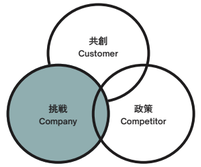


存在価値を自覚して、共生できる社会



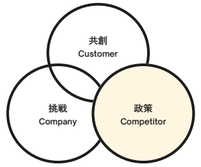
共創型国際交流イベント

2050年の共創社会に向けて、多様な価値観を持つ人々が共に学び、創造的な対話を通じて新たな可能性を生み出します。



イントレプレナーシッププログラム

2050年の共創社会に向けて、個人が自身の価値を追求しながら、社会起業を体験できる機会を提供します。



政策提言＆討論会

2050年の共創社会に向けて、社会貢献を行政や大企業だけに任せるのではなく、次世代が主体的に社会を解釈し、善策を提言する場を創出します。

国際交流事業

Promise

2050年の共創社会に向けて、外国人と日本人の相互理解だけにとどまらず創造を通した価値を提供します。

誰に？

異文化との対話を通じて視野を広げたい学生・社会人

多様性の時代に対応し、グローバルな環境で活躍したい人外国人と共に協力し、新たなアイデアやプロジェクトを生み出したい人

なにを？

共創型国際交流イベント – 文化理解だけでなく、新たなアイデアを生み出す対話の場を提供

ワークショップ – 異文化の視点を取り入れながら、具体的なプロジェクトを形にする実践的なプログラム

共創型国際交流イベント

私たちの交流イベントには、以下の3つの特徴があります。

1. 共通の目標に向けて協力し、異なる文化を超えた一体感を育む
2. 自然な対話が生まれる環境を設計し、交流を促進する
3. 成果や達成感を共有し、持続的な関係を築く

これは、社会心理学の「共通内集団アイデンティティ理論」に基づいています。

この理論では、異なる背景を持つ人々が共通の目的に向かって協力することで、「私たち」という意識が生まれ、相互理解が深まる とされています。

私たちは、この知見を活かし、LEGOの共同制作や料理教室など、自然に交流が生まれるアクティビティを実施。 一過性の国際交流を超え、「共創による持続的な相互理解」 を目指します。

創造&発見 → **理解＆分かち合い** → **可能性**

中期 2030年 → 長期 2035年 → 超長期 2050年

イントレプレナーシッププログラム

Promise

2050年の共創社会に向けて、「私らしさ」とは何かを「起業」を通じて探求できるプログラムを提供します。

誰に？

これからの日本社会を築く若者

「今、何をするべきか」迷っている若者

なにを？

起業家体験や、ビジネスコンテスト。

イントレプログラム

2050年の共創社会に向けて、個人が「私らしさ」を追求できるプログラムを提供します。

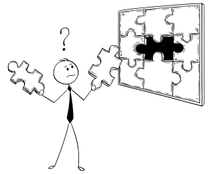
しかし、「なぜ起業なのか？」と疑問に思う方もいるかもしれません。

私自身、起業を経験し、悩むことや憂鬱になることもありましたが、その過程で社会課題に対してアート思考を活かした解決策を模索し、自己を深く見つめ直す機会を得ました。 これにより、起業は単なるビジネスではなく、自分の人生を探求する手段であると実感しました。

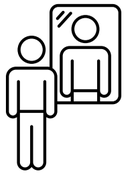
だからこそ、多くの人に「起業」という手段を通じて、「私らしさ」を発見し、共創社会の一員として新たな価値を生み出してほしい と考えています。

社会課題の発見

解決策の模索



実施＆内省



中期 2030年 → 長期 2035年 → 超長期 2050年

政策提言＆討論会

Promise

2050年の共創社会に向けて、一人ひとりが主体的に政策立案や政治に参加できる場を提供します。

誰に？

これからの日本社会を築く若者 社会課題に関心がありながら、意見を表明する機会がない人自らの考えを政策として形にし、社会に影響を与えたい人

なにを？

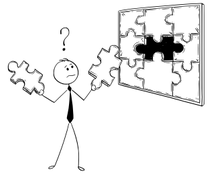
2050年の共創社会に向けて、個人が社会課題について考え、提言し、主体的に関わる場を提供します。
「誰かに任せる」のではなく、自ら意思を持ち、社会の意思決定に関与できる環境を創ります。
私たちは、議論・提言・実践 を通じて、新たな価値を共に生み出していきます。

政策提言＆討論会

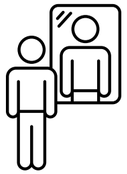
2050年の共創社会に向けて、すべての人が社会課題に対して考え、解決策を提言し、主体的に参加できる環境が必要だと考えています。
これまで、社会のあり方を決めてきたのは企業や政府でした。しかし、これからの時代は「誰かに任せる」のではなく、一人ひとりが意思を持ち、未来を形作る時代*です。
私たちは、議論・提言・実践を通じて、個人が社会に参画できる場を提供し、新しい価値創造を促進していきます。

社会課題の発見

解決策の模索



実施＆内省



中期 2030年 → 長期 2035年 → 超長期 2050年

Business Roadmap

団体発足
佐藤・山﨑が、Brave heartsを発足

April 2024

Vision 策定
多文化共生の実現には、一次元的ではなく多次元的アプローチが必要である。

February 2025

一都市成功
今から十年後には、一都市にて成功モデルを確立させ、全国区的に普及させていく。

2035

循環型共生社会
「存在価値」を自覚して、共生できる社会

April 2050

カラバリを増やそう
様々なバックグラウンドの人が自己を確立しながら共生する社会

Mission

04 実績紹介

活動報告書要約

国際交流事業

政策提言

人材育成

共育コンサルタント

政策提言

1件（審議済み）

参加者満足度

5段階中 4.5獲得

国際交流イベント実施回数

3回実施

共育コンサルタント

私立難関校
合格者輩出
+１名起業

国際交流事業一概要

第一回国際交流イベント

ヘイトスピーチをテーマとした国際交流イベントを開催しました。在日外国人や日本人など、多様な背景を持つ5名程度が参加し、英語でディスカッションを行いました。韓国人留学生の経験談を通じ、ヘイトスピーチの実態と影響について具体的に議論されました。結果として、ヘイトスピーチに対する抑止力としての規制の必要性で意見が一致しました。

政策提言

第一回国際交流イベントの結論を、団体内で審議した結果政策立案する意向に固まり、**「ヘイトスピーチ規制条例の設置」を横浜市議に陳情しました。**

現在横浜市議において、**正式に受理され本件が会議されました。**

第二回国際交流イベント

LGBTQに関するディスカッションをケニア人、日本人を含む11名程度が参加し、英語で議論を行いました。当初は宗教的・社会的背景の違いにより議論が難航しましたが、「新しい相対主義」の理論に基づくアプローチを導入したことで、建設的な対話が可能となりました。最終的に、**「LGBTQの権利について、普遍的価値である愛という観点から尊厳を尊重する」ことに満場一致**で合意しました。権利の範囲については相違が残るものの、相互理解は深まりました。

国際交流事業ー概要

第三回国際交流イベント

TOKYO EXPAT EXPOとの同時開催という機会を活用し、共通内集団アイデンティティ理論に基づいた文化交流イベントを実施いたしました。インド、イギリス、アメリカなど多様な文化背景を持つ参加者と当団体メンバーが、カルタやおみくじなどの日本の伝統的な遊びを通じて交流を深めました。
本イベントは、オールポートの接触仮説の三条件（対等な地位、共通目標の追求、制度的・社会的な支援）に則り実施され、文化交換を通じた自然な対話の創出に成功いたしました。これは当団体が目指す「持続可能な多文化共生」の実現に向けた重要な一歩となりました。

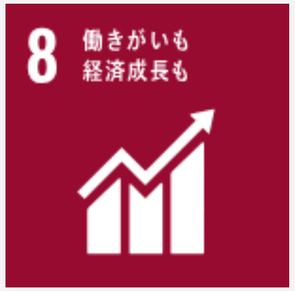
共育コンサルタント

1：不登校を起因とする教育格差

本団体に所属する高校3年生の武田が、団体内のグループディスカッション等を通して、不登校を起因とする教育格差に関する論考を執筆しました。内容は、当団体ホームページからご確認いただけます。加えて、現在事業実施に向けて尽力しています。

2：社会課題解決（少子高齢化）に向けた実践的な取り組み

当団体に所属する台湾人の河間が、団体内でのグループディスカッションを通して、社会課題解決（少子高齢化）に向けた実践的な取り組みに関する論文を執筆しました。内容の詳細は、当団体ホームページからご確認いただけます。加えて、現在事業実施に向けて尽力しています。



Thank You!

Brave hearts
https://www.brave-hearts-international.org/
神奈川県横浜市青葉区梅が丘33-4-201